

## 第 4 章

### 資料

## 第 1 節 会則・ワーキンググループ申し合わせ

平成 30 年 7 月 10 日（火）午後 1 時 0 0 分より宮城教育大学中会議室にて、平成 30 年度みやぎの ICT 教育研究専門部会総会が開催された。そこで協議され、改訂された今年度のみやぎの ICT 教育研究専門部会会則と仙台城南高等学校ワーキング・グループ申し合わせの内容を下記に記載する。

### みやぎの I C T 教育研究専門部会設置会則

（目的及び名称）

第 1 高等学校教育における I C T 教育の推進について研究開発を行うために、みやぎの I C T 教育研究専門部会（以下「専門部会」という。）を設置する。

（事業）

第 2 専門部会は、以下の事業を行う。

- (1) 市販デジタル教科書活用や自作デジタル教材作成に係る研究開発
- (2) 授業におけるタブレット端末活用に係る研究開発
- (3) 家庭学習（自学自習）におけるタブレット端末活用に係る研究開発
- (4) 学習効果の測定（評価）に係る研究開発
- (5) 校務処理支援やシステム管理に係る研究開発
- (6) その他、専門部会の目的を達成するために必要な事業

2 広く研究成果を発信するための毎年 1 回以上の研究協議会の開催

（組織）

第 3 専門部会は、宮城教育大学と宮城県教育委員会、並びに東北工業大学と宮城県教育委員会との包括連携協定に基づき事業を推進する。

2 専門部会は、宮城教育大学、東北工業大学、および別表 1 に掲げる参加校によって構成する。ただし、部会の趣旨に賛同する公私立高等学校の参加を妨げない。

（役員）

第 4 専門部会には次の役員を置き、別表 2 に掲げる職にある者を充てる。

- (1) 専門部会長 1 名
- (2) 副専門部会長 3 名

2 専門部会長は、専門部会を統括し、専門部会を代表する。

3 副専門部会長は、専門部会長を補佐し、専門部会長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（ワーキング・グループ）

第 5 専門部会に、第 2 の 1 の事業を推進するため、ワーキング・グループをおくことができる。

（会議）

第 6 専門部会に総会及び役員会を設置する。

(総会)

第7 総会は、毎年1回、専門部会長がこれを招集する。ただし、必要がある時は臨時に開くことができる。

総会の議長は専門部会長が行い、次の事項について審議し、出席者の過半数を以てこれを議決する。

- (1) 会則の改正
- (2) 事業計画および事業報告の承認
- (3) その他の事項

(役員会)

第8 役員会は次の事項を審議する。

- (1) 運営に関する基本方針の決定
- (2) その他の事項

(事務局)

第9 事務局を仙台市太白区八木山松波町5番1号 仙台城南高等学校内に置き、専門部会の運営にあたる。

(その他)

第10 この会則に定めるもののほか、専門部会の運営に関しての必要な事項は、専門部会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成30年7月10日から施行する。

別表 1 (参加校：高等学校)

平成 29 年度

学 校 名	備 考
宮城県松島高等学校 学校法人 東北工業大学 仙台城南高等学校	平成 26 年度加入
宮城県気仙沼高等学校 宮城県登米総合産業高等学校	平成 27 年度加入
宮城県多賀城高等学校 宮城県蔵王高等学校 石巻市立桜坂高等学校	平成 28 年度加入
宮城県南郷高等学校 宮城県伊具高等学校 宮城県田尻さくら高等学校	平成 29 年度加入



平成 30 年度

学 校 名	備 考
宮城県松島高等学校 学校法人 東北工業大学 仙台城南高等学校	平成 26 年度加入
宮城県気仙沼高等学校 宮城県登米総合産業高等学校	平成 27 年度加入
宮城県多賀城高等学校 宮城県蔵王高等学校 石巻市立桜坂高等学校	平成 28 年度加入
宮城県南郷高等学校 宮城県伊具高等学校 宮城県田尻さくら高等学校	平成 29 年度加入
宮城県古川黎明中学・高等学校	平成 30 年度加入

## 仙台城南高等学校ワーキング・グループ申し合わせ

1 ワーキング・グループはグループ長、グループ員、指導助言者をもって構成し、別表3に掲げるものが

世話人として全体の調整に当たる。

2 別表2に掲げるものはワーキング・グループの指導助言を行うとともに、仙台城南高等学校の協力の

もとにICT教育に係る研究を行い、成果を発表するものとする。

3 仙台城南高等学校は、別表3に掲げる者の研究に協力するものとする。

別表2 (ワーキング・グループ世話人)

平成30年度

所 属	職 名	氏 名
宮城教育大学教職大学院	教 授	田 幡 憲 一
仙台城南高等学校	教 頭	佐々木 啓 充
仙台城南高等学校	教諭 (ICT 教育推進室室長)	千 葉 俊 哉

別表3 (指導助言者)

平成30年度

所 属	職 名	氏 名
宮城教育大学教職大学院	教 授	田 幡 憲 一
宮城教育大学教職大学院	教 授	平 真木夫
宮城教育大学	准 教 授	安 藤 明 伸
宮城県教育庁高校教育課	主 任 主 査	佐々木 久 晴

## 第2節 ICT 利活用技術研修会について

昨年度からはじめた取り組みとして ICT の活用の第一歩を踏み出すきっかけとなる研修会を企画し、実施した。下記にその概要を記載する。

### 第1回 ICT 利活用研修会

テーマ	タブレット端末のカメラの活用と miyagiTouch の体験
対象	教育への ICT 活用に興味のある教員、学生、市民等
参加者	小、中、特別支援学校教員 22 名、 この他に組織者としての高等学校教諭 2 名を含む 6 名が参加
期間	平成 30 年 8 月 7 日（火）
会場	利府町庁舎
講師	樋代直人（仙台城南高等学校教諭）
プログラム	講演 iPad のカメラ機能の基本操作について ワークショップ ①カメラ機能の基本的操作 ②miyagiTouch の体験 ③各グループからのアイデアの報告

### 第2回 ICT 利活用研修会

テーマ	プログラミングはじめの一步
対象	教育への ICT 活用に興味のある教員、学生、市民等
参加者	小学校教員 6 名、中学校教員 4 名、特別支援学校教員 3 名、 学生 3 名（教員採用試験名簿搭載者）、計 16 名 他に組織者、講師として教諭 3 名を含む 5 名が参加
期間	平成 30 年 12 月 9 日
会場	東松島市矢本市民センター
講師	木村浩之（宮城教育大学教職大学院・東松島市立成瀬未来中学校教諭） 藤原英治（宮城教育大学教職大学院・石巻市立河南東中学校教諭）
プログラム	A コース：TECH 未来を活用したプログラミングの授業 ～中学校技術・家庭科での授業実践から～ B コース：小学校段階におけるプログラミング教材を取り入れた授業づくり ～プログラミング・ロボット「sphero」を活用した授業モデル～

### 第3回 ICT 利活用研修会

テーマ	プログラミングははじめの一步
対象	教育への ICT 活用に興味のある教員、学生、市民等
参加者	小学校教員 8 名、中学校教員 6 名、高等学校教員 1 名、その他（指導主事 1 名）、計 16 名 他に講師、組織者として教諭 3 名を含む 8 名が参加
期間	平成 31 年 1 月 26 日（土）
会場	鹿折ふれあいセンター（気仙沼市）
講師	木村浩之（宮城教育大学教職大学院・東松島市立成瀬未来中学校教諭） 藤原英治（宮城教育大学教職大学院・石巻市立河南東中学校教諭）
プログラム	A コース：TECH 未来を活用したプログラミングの授業 ～中学校技術・家庭科での授業実践から～ B コース：小学校段階におけるプログラミング教材を取り入れた授業づくり ～プログラミング・ロボット「sphero」を活用した授業モデル～

### 第4回 ICT 利活用研修会

テーマ	プログラミングははじめの一步
対象	教育への ICT 活用に興味のある教員、学生、市民等
参加者	小学校教員 10 名、中学校教員 6 名、特別支援学校教員 3 名、 高等学校教員 2 名、 学生 3 名（教職大学院学生、教員採用試験名簿搭載者、準備・撤収の補助） 他に講師、組織者として教諭 3 名を含む 7 名が参加
期間	平成 31 年 3 月 3 日（火）
会場	宮城教育大学 未来の教室、229 教室、210 教室（仙台市）
講師	木村浩之（宮城教育大学教職大学院・東松島市立成瀬未来中学校教諭） 藤原英治（宮城教育大学教職大学院・石巻市立河南東中学校教諭）
プログラム	A コース：TECH 未来を活用したプログラミングの授業 ～中学校技術・家庭科での授業実践から～ B コース：小学校段階におけるプログラミング教材を取り入れた授業づくり ～プログラミング・ロボット「sphero」を活用した授業モデル～